

あいさつで安心できる学校を目指す平田野中学校の生徒会の皆さん

差別をなくすためにまず大切なことって?

人権教育では、正しい知識を得ることや、思いやりの感性を育むことも大切ですが、人権を守り差別をなくすための「実践行動」ができるようになることも重要です。

「実践行動」とは、差別的な言動に出会ったときに、差別的発言であることを指摘したり、差別を解消しようと行動したりするなど、具体的な行動を起こすことです。社会問題であるSNS上での誹謗中傷の書き込みや、個人情報を晒す動画投稿などに対して、多くの人々が、その問題点を指摘したり、問題を解決しようと行動を起こしたりしています。

こどもたちも同様に、こうした姿勢や行動がさまざまな場面でできるよう人権学習に取り組んでいます。私たち自身も、自らの言動や生活を振り返りながら、全ての人が安心して過ごせる学校や社会をつくるため、「今、自分にできること」を考え、実践行動につなげていきませんか。

サークルメンバーの一言

いじめや差別をなくすこと、友だち関係などについて、安心して話せて楽しいです。このような場が、学校や普段の生活でも作っていけたらいいと思います。



▲自分の思いをワークシートに書き入れる中学生たち

市内10中学校区「人権フォーラム」

毎年12月ごろ、各中学校区で、小学生と中学生の代表者が集い、人権について話し合いを行っています。

そこでは、各学校で話し合ってきた身近な人権問題に対して、「何が問題なのか」「自分ならどうするのか」など、差別をなくし自分らしく日々を過ごすための考え方や思いを交流し合っています。ここで話し合った内容は各学校で還元し、それぞれの人権学習に生かしています。



令和7年度小学校の部：最優秀作品
(鼓ヶ浦小学校1年 後藤 桃花さん)

令和7年度中学校の部：最優秀作品
(大木中学校3年 加藤 岸さん)

私たちにできること

司会進行を務めた中学生の「いじめや差別をなくしていくたい」という熱意が小学生にも伝わり、差別をなくす展望を踏まえた活発な討議ができたと思います。

▲いじめや差別をなくす行動について話し合う児童・生徒

人権作文や人権ポスターなどでの啓発活動

市内の小・中学生は、毎年人権に関する作文やポスターの制作を通し、一人一人の人権を大切にする思いを、文書や絵で表しています。このような活動や発信も「差別をなくす実践行動」です。

年間を通して、人権に関する知識を得たり自らの人権感覚を高めたりするなど、各小・中学校で人権学習が進められています。

▲いじめや差別をなくす行動について話し合う児童・生徒

私たちにできること

現代社会には、まだまだ不合理な迷信や決めつけなどが多く存在しています。例えば「丙午生まれの女性への偏見」もその一つです。

来年、2026年がその丙午の年に当たります。その時に生まれてくるこどもに偏見なく喜ぶことができるようにしていくことが、私たちにできる差別をなくす第一歩ではないでしょうか。

また、人権教育の目的は「自他を大切にすること」です。そのためには学校以外の家族や地域でも、こどもが自尊感情を持てるように「がんばってるね」「とてもいいよ」などのプラスメッセージの声掛けをしていくことが大切です。こうしたことでも人権を大切にする私たちにできる行動の一つだと思います。

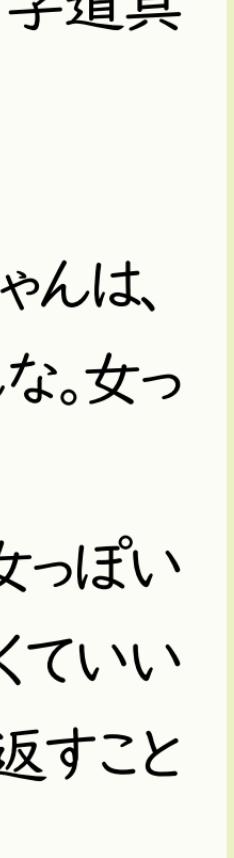
鈴鹿市人権教育アドバイザー 西繁さん

こどもたちの人権作文

学校で人権について学んだ児童・生徒の皆さん。自らの経験をもとに記した「人権作文」について、代表作品をご紹介します。

好きなものをえらびたい

河曲小学校3年 山路 悠仁さん



ぼくは、2年生の3学きに、3年生から使う習字道具をえらびました。ぼくは、ミッキーのデザインの習字道具をえらびました。キラキラしていて、ミッキーのキーホルダーがついていました。

ぼくがミッキーの習字道具を選んでいると、お兄ちゃんが、「なんでミッキーなん? こっちの方がいいのに。」と、炎がらの習字道具を指して言いました。ぼくは、「ミッキーがいい。」と言いました。すると、お兄ちゃんは、「そんなに言うならそれにしな。女っぽいけど。」と言い合いになりました。「女っぽいとか、男っぽいとか決めなくていいのに」と思いましたが、言い返すことができませんでした。

3年生になり、みんなの習字道具を見ると、ぼくと同じミッキーがらの習字道具は、女の子しか持っていないでした。「炎がらの習字道具にした方がよかったです」かもしれない」と思っていましたけど、だれかが何を持っていてもいいと思います。

自分のまわりにも男女での決つけがあることに気づきました。これからは、男女関係なくすごすことができるよう、きちんと

と言葉でも伝えた

いと思います。

お母さんは、病気の進行をおさえるために目に注射をうつたので、顔の半分がかくれるくらい大きな眼帯をつけてもらつたそうです。車の運転はしてはいけないので、病院から駅まで久しぶりに町中を歩いてみると、この世の中は体が不自由な人でもあまり不便な思いをすることのないように道が整えられているんだなということに気づいたそうです。このように現代の「町なみ」は、できる限りだん差がなかつたりたくさんの点字ブロックがあつたりと、みんなが好きなときに好きな場所に行けるという人けんが守られるように整えられている一方、それ違う人や電車の中ではジロジロといやな感じの見方をしてくる人もいたと、お母さんは言っていました。

わたしは、「人の心の中」の人けん意識は、まだうすいのかなと思いました。わたしは、生まれた国がちがつても、身体が不自由でも、みんな同じ人間なんだからおたがいの人けんを大切に思い合うべきだと思います。じゅぎょうで習うまでは、「人けんとは」ということをあまり考えたことがありませんでしたが、いつも家族や先生や友達など、わたしの周りの人たちがわたしの人けんを大切にしてくれているから、わたしは毎日楽しくすごせているんだということを学校やお母さんのおかげで気づくことができました。なので、わたしも周りの人たちの人けんを大切に思い、自分とちがう見た目の人やちがう考え方の人と出会っても人けんしん害のような行動なんてしないように生きていこうと思います。

これをふまえて、外国人の方と一緒に過ごすには、日本の文化、ルールを分かりやすく説明し関わることから始めて、外国人というひとくくりの大きな主語にせず一人一人をみると、大切にしてほしいです。自分ですが勘違いをしてしまうこともあると思います。ですが、しつかり見直して反省すれば、仲を深めることもできます。実際にわたしはAさんと仲よくなることができました。自分がしつかり向き合った結果だと思います。

SNSなど情報がよく回る現代ですが、話して関わることの方が大切だし、大切にすべき

だと思いました。

今回の特集に関するご意見・ご感想は

教育支援課 ☎382-9055 前382-9053

kyoikushien@city.suzuka.lg.jp